

ビジネスにおけるAIの活用はどんな方向性なのか？

既存業務の効率化や行動化

新規サービスの立ち上げ

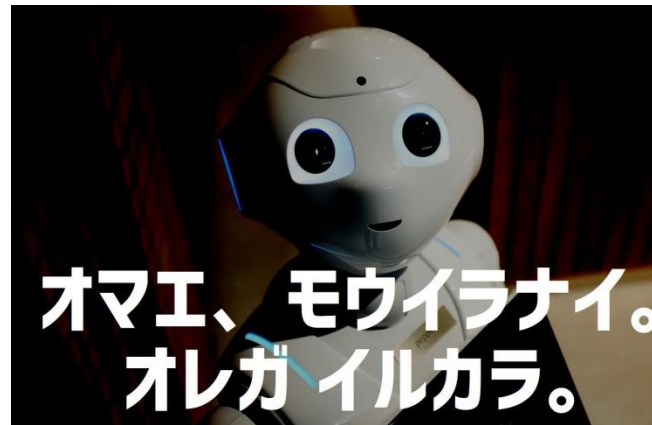
ビジネスのスケール加速

リアルワールドのインテリジェント化

判断



予測



作文



識別



金融



自動車



製造業



農業



医療



セキュリティ



予防、診断、治療スペースのAI×ヘルスケアデータの特徴 (私見)

予防

診断

治療

参入する会社の特徴

- スタートアップも多い（薬事承認の壁がない／低いため、参入障壁が比較的低い）
- 医業界からの参入する人材や企業が多い印象

- 日本は画像診断領域において世界トップレベルの会社を複数抱える
- 薬事承認も必要な場合があり、体力がある大企業が多い

- 「治療」スペースの会社数は制限されている印象
 - 例：患者のCT画像を画像バンクを参照し、過去の類似臨床ケースを提示する
 - 有名病院の治療方針を参考情報として提示する

AIへのインプットとして求められるデータの性質

- ノイズがあっても利用可能（Apple watchの心拍数）

- MRIやCT画像、病理画像といった、臨床における有効性が認められるデータが多い（皮膚画像の写真など、ライトタッチなものもある）

求められるAIの性質

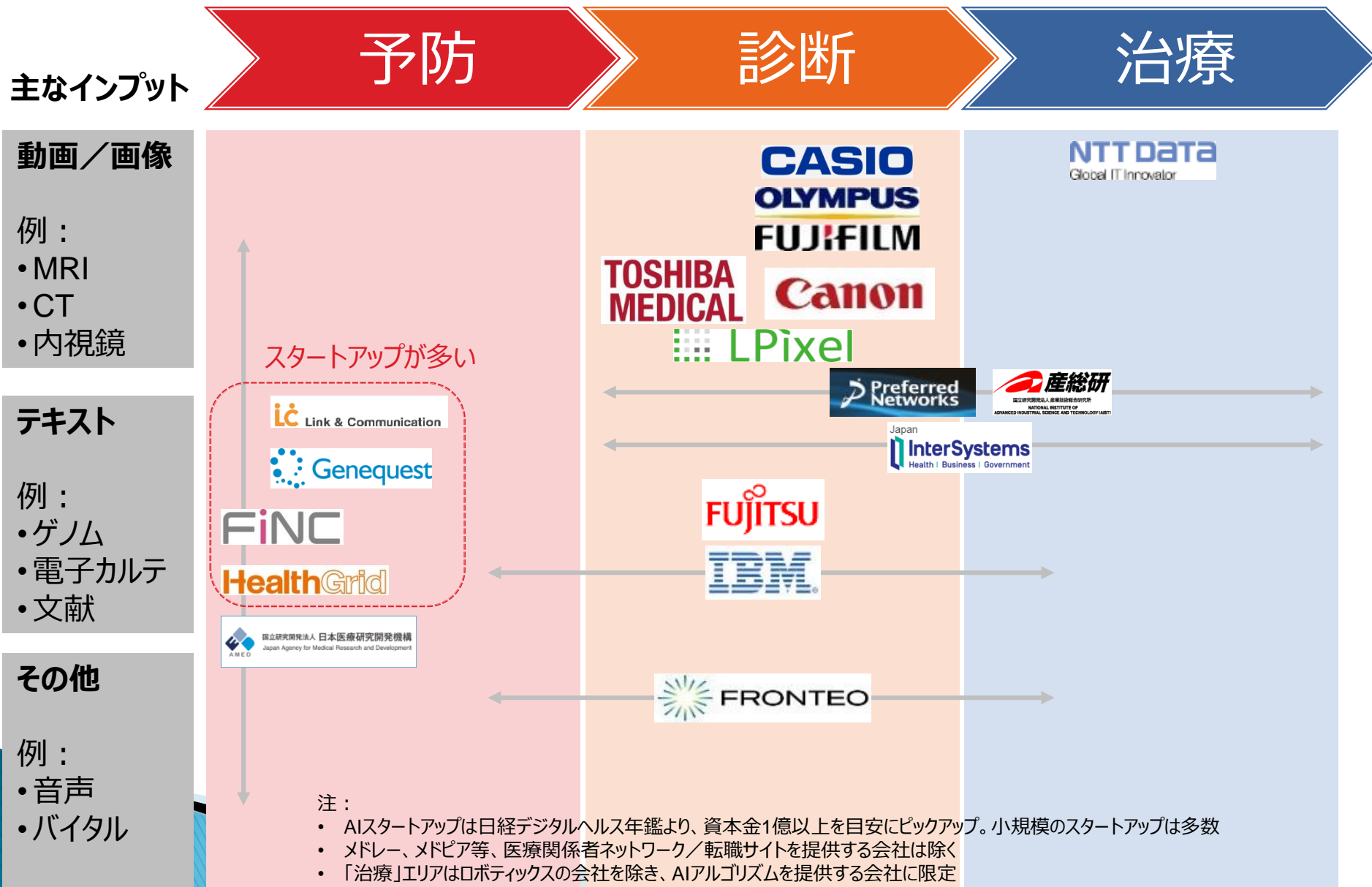
- 多種類の非構造化データを総合的に判断するAIが多い印象

- 一種類のデータ（特定の画像やテキスト）に基づいて、病気の有り無しを判断するAIが多い印象

ライトタッチ ←

→ ヘビータッチ

医療×AIスペースにおけるタイプ別プレイヤーの例（日本市場）



データと医療の融合を起こしていくための今後の課題（私見） ～ヒト・カネ・モノの観点で

ヒト

医・理の
優秀人
材のひき
つけ

医療関
係者がビ
ジネスモ
デルの変
化を認識

カネ

AI研究へ
の積極
投資

ヘルスケアに参入し
たいテック業界

融合、
新産業
の誕生

AIを利用したい医
療業界

AI応用
に対する政
府の後
押し

モノ

非典型
的医療
データの
応用

医療デー
タのイン
フラ整備

